

令和6年度第1回うらわ美術館協議会会議録

1 日 時 令和6年8月29日（木）午後3時00分から午後4時30分

2 場 所 うらわ美術館会議室

3 出席者 加藤委員（会長）、大越委員（副会長）、内藤委員、西村委員、小泉委員、千葉委員、笈川委員、正田委員
細田館長、佐野生涯学習部長、釜副館長、安齊係長、山田係長、梶主査

4 次 第

開会

議事

（1） 令和5年度事業報告及び評価について

（2） 令和7年度事業計画（案）について

（3） その他

閉会

5 議事内容

副館長 うらわ美術館協議会規則第3条の規定により会長に議事進行をお願いいたします。加藤会長、よろしくをお願いいたします。

加藤会長 それでは議事に入りたいと思いますが、出席者は8名、欠席者は2名ですから、今回会議は成立します。事務局にお尋ねしますが、傍聴希望者はおられますか。

事務局 おりません。

加藤会長 傍聴希望者なしということで、次第にしたがって進行します。令和5年度事業報告及び評価について、事務局から説明をお願いします。

事務局 《令和5年度事業報告》

加藤会長 ただいま事務局より、昨年度の事業報告及び評価について説明がありましたが、展覧会事業に関して御意見等はございますでしょうか。

大越委員 昨年度は空調工事により前半だけでしたが、いつもの展覧会が適切に開催できてよかったと思います。前にも触れたかもしれませんが、絵本原画展の時にオンラインで海外の方とお話ができるというのは大変良い試みだと思っております。

加藤会長 ありがとうございます。教育普及事業に関して御意見等はございますでしょうか。

西村委員 教育普及専門の学芸員の方はいらっしゃらなかったのではしたよね。学芸員の方々は展覧会のことで忙しいと思うので、教育普及担当の指導主事の方が回していただくのがいいとは思いますが、せっかく専門の方がいらっしゃるのであればもう少しいろいろ工夫なさった方がいいのではと思います。今年の春に長野県立美術館で展覧会を行い、幼稚園から小学生20人程でワークショップを実施しました。その時にボランティアの方もついていたのですが、通常のボランティアではなく、アートコミュニケーターとあって独自に養成された方でした。いろいろと学ばれてからボランティアに入られるわけです。他の美術館でもやっているとは思いますが、こういった形でボランティアを募集し一年間学ばれて美術館のいろいろなことに関わるというものです。それから、最近学校の特殊学級にも働きかけているとお聞きしましたが、長野県立美術館ではスクールプログラムとして、先生方への美術館ガイドや特別支援学校のためのスクールプログラムとして、わかりやすくチラシにして配布されています。こういったものも参考にして、進められるともっと色々な学校が参加しやすくなるのではないかと思います。また、長野県立美術館では教育普及部門の担当の方が3人くらいいらっしゃいますので充実していると言えますのですが、参考にしていただくと良いと思います。

加藤会長 ありがとうございます。私からもよろしいでしょうか。多世代ワークショップというのは参加者の年齢層はどのようだったのでしょうか。なぜかといいますと、子どもたちのプログラムだけではなく、高齢の方も含めてのプログラムというのが今必要なのではないかなという状況の中で、若者向け、子ども向け、高齢者向けと分けて実施されたのかなと興味を持っております。

事務局 御指摘のように、親子ワークショップというのは様々な美術館で実施しているのですが、当館では色々な世代が交流しながら一緒に一つのことを行うとして、多世代ワークショップを15年くらい実施しております。令和5年度は10代未満が4名、10代が2名、30代が1名、40代が4名、50代が3名、60代が3名、不明が2名となっております。内容にもよりますが、令和5

年度は鑑賞のプログラムでしたので、色々な世代が感想を言いながら鑑賞し会場をまわるバランスのとれたとても良いプログラムでした。正直なところ、近年高齢者の参加が少なく、やはり創作ワークショップだと子どもや親子が多くなります。今、世代というよりももっと対象を広くして多様性ということで、障害がある方など色々な方が参加しやすいようなプログラムに広げていった方がいいのかなといった話も出ており、意識的に広報していくことも考えたいと思っております。

加藤会長 ありがとうございます。学校連携事業におきましてはいかがでしょうか。

正田委員 アートカードの貸出について、授業などで私自身も使ったことがあり使いやすいですし、うらわ美術館の飛び出す絵本などを持ってきてもらって小学校では授業されていたりして良いと思います。中学生は夏休み等に部活動等で美術館に来館したりしています。

館 長 相当活発に学校には行っております。うらわ美術館に指導主事が常駐しているということが非常に大きいと思います。

副館長 令和5年度に関しましては48校で144回の授業を行っております。ただ担当が一人だけですので、なかなかスケジュールを合わせてというのが難しいのですが、年々回数は増えております。

加藤会長 ありがとうございます。不登校等児童生徒支援センターG r o w t h（以下、G r o w t h）との活動については今回が初めてになるのでしょうか。

館 長 そうですね、G r o w t h自体が始まって3年目になりますので、令和5年度は開始されて2年目になります。

加藤会長 素晴らしいですね。何か始めるきっかけがあったのでしょうか。

館 長 不登校の問題というのは国レベルの問題ではございまして、さいたま市ではどこにも繋がっていない子どもたちにデジタルを中心に学びに繋がたいとして立ち上げたものですが、そこで体験的な学びをやっていきたいということをコンセプトとし、その一環でうらわ美術館も協力しているということでございます。

加藤会長 ありがとうございます。他に御意見はいかがでしょうか。

千葉委員 多世代ワークショップは土曜日に開催されたということは一般の来館者が鑑賞している中で実施したということによろしいでしょうか。鑑賞学習についても同じでしょうか。

事務局 はい、開館時間の中で実施しています。

千葉委員 それをもう少し発展させて、前回の会議でも提案したと思うのですが、目が見えない方と対話する等、あえて来館しやすい日を設定してみるですとか、さきほど多様な背景を持つ人が参加できるプログラムという話も出ましたので、そういったことも試みてもいいと思います。

事務局 ありがとうございます。それにつきましては、後ほど関連する事項を報告させていただきます。よろしくお願いいたします。

千葉委員 わかりました。あと、出張授業が活発に行われているとお伺いしましたが、どのような内容をお話されているのでしょうか。

副館長 小学校と中学校で各1時間のコマで、興味関心をもって見ることができる造形的な本を持ち込み、生徒たちが見て感想を話したり、地域ゆかりの作家や世界の名画がセットになったアートカードを見て感じたことを発表し合ったりするなどの活動をしています。

生涯学習部長 私がいた学校でも、絵本を紹介しつつ芸術に触れさせてもらう豊かな時間で、クラスの子どもたちは身を乗り出している様子でした。感想用紙を見ますとそこにも豊かな言葉がつづられていました。

加藤会長 ありがとうございます。他に御意見はいかがでしょうか。

小泉委員 Growthとの事業についてなのですが、生徒たちに関心を持ってもらえるように工夫などはされたのでしょうか。

事務局 作品をオンラインで映しながら解説を付けていくことで、だんだんとイメージが生徒たちの中でそれぞれできていく形で、日常的な話題を入れたりして工夫しながら行いました。昨年は2件実施しましたが、来館した生徒たちもいますし、家から見ていた生徒もいました。これが少しずつきっかけになっていくと良いなと思っています。

加藤会長 ありがとうございます。内藤委員は御意見いかがでしょうか。

内藤委員 美術に対して子どもたちが個人で直接刺激を受け興味を持つ形はなかなかむずかしく、学校の教育活動の一環としてそういうものを上手く引き出していつてあげるとのことだと思いますが、子どもは割と自分勝手なものでもありますので、その興味をどういう風に発展させてあげられるのかというのは、大人から押し付けるのではなく子どもからでてくるものを上手く捕まえられるか、大人が手助けするその仕方が違ってしまっは困るかなと思います。

加藤会長 子どもの個性がある以上、なかなか難しいところもあるかもしれませんね。

内藤委員 上手く大人が捉えることができると良いと思います。

加藤会長 ありがとうございます。

それでは、次の議題にいきます。令和7年度の事業計画（案）につきまして事務局からお願いします。

事務局 《令和7年度事業計画（案）説明》

加藤会長 ただいま事務局より、事業計画案をお話いただきました。それでは皆様、何か御意見、御質問がありましたらお願いいたします。

笈川委員 一人1台端末で小中学生全員タブレットを持って学習し始めているのですが、使えば使うほど生徒たちは巧みになっているのですが、一方でAIによって自分のお気に入りの情報に囲まれてそれだけになってきてしまっています。内藤委員のお話で直接刺激を受けることについて、さきほどGrowthの活動をとても良いと思ひまして、こうした体験活動というのは自分の好みじゃないものも見るかもしれないですけど、そこで今までと違った視点で刺激をもらえるというのが大事なのだと、そこに大人が手助けしてこういう機会を与えることも学校の生徒たちへの教育の責任としてきちんとやっていかなければいけないと思ひました。

加藤会長 ありがとうございます。基本的な質問なのですが、展覧会事業の運営の形態はどうなっていますでしょうか。

事務局 まず、春の展覧会につきましては企画提案されたものに当館の収蔵品を加え開催する予定です、夏展は6館の公立美術館と一緒に調査協力し巡回展とし

て開催する予定です。冬展は当館のみの開催で当館のコレクションに関連した展覧会を予定しています。

加藤会長 海外と直接やり取りされる展覧会を毎年やってらっしゃると思うのですが、かなり大変なことだと思います。ですので、来年度のものはパッケージされているものなのかと思いましたが、すべてがそうではないということで、とても質の高い活動をしていらっしゃると改めて思いました。

それと、空調設備改修工事が終わったことにより収蔵作品は戻ってきているのでしょうか。

事務局 9月から戻す作業に入ります。

加藤会長 作品が戻ってくる前に、工事でいろいろな作業が行われたと思いますが、館内の環境調査はされたのでしょうか。

事務局 環境調査は今回の工事に関わらず、毎年夏頃にやっております、今年度も実施しております。

大越委員 展覧会のことなのですが、休館明けで忙しい中、いつにも増してコレクションの活用が活発な印象があって、それは良いことだと思います。うらわ美術館は常設展示室が無いので、いろいろと特色を打ち出しても、うらわ美術館の存在感を伝えるのが難しく、特に休館明けにコレクションの活用を集中してできるのは効果があると思いました。それと、オンライン授業の関係なのですが、「博物館浴」について、科学的根拠はいまだに見つかってはいませんが、参加者の攻撃的だったりネガティブな精神が博物館や美術館へ行くことによって改善されるという実証がされているようです。オンラインでの鑑賞でも同じような効果があるのかどうか関心を持っていますが、学校や美術館で実践することはできてもそういった研究に結び付くといったことは難しいと思います。他で研究例があるかと思いますが、アンテナを立てながら効果のあるものにしていければ良いと思います。「博物館浴」では直接来館するというのも大事で、親が関心があって子どもを美術館等へ連れて来ていると、子どもも自然と関心を持つようになると言われておりますが、それですと親によって差が出てしまいます。学校で子どもたちを美術館等へ連れてくるといったことが平準化されると、それに代わるチャンスになりますので上手く連携できると良いと思います。

千葉委員 4月からの春の展覧会は、とても気合が入っている感じを受けましたので、リニューアルオープンということ等もありますし、タイトルに工夫が必要かと思いました。

加藤会長 4月からの展覧会ですと、公立の美術館では予算の関係で広報が大変ではないでしょうか。

事務局 近年では債務負担行為で予算を確保し、その年の1月頃から広報の準備に取りかかっております。

加藤会長 一般的に大規模な展覧会というのは半年以上前から広報をしますので、3か月前というのは決して早いわけではないと思います。予算をかけなくても簡単なホームページ上での告知や、手作りの紙チラシのようなものですとか、学校へのお知らせ等、できるだけの広報をして、せっかくリニューアル後開催するものですから、たくさんの方に来ていただきたいなと思いました。

事務局 貴重な御意見ありがとうございます。

加藤会長 他に御意見なければこれでよろしいでしょうか。これで令和7年度事業計画(案)の説明を終わりにいたします。
その他事務局より報告はありますでしょうか。

事務局 2点ご報告させていただきます。まず、令和6年度の冬の収蔵品展ですが、内容等に変更がありまして、当館で近年収集した現代作家の展示を予定しております。先ほどのアクセシビリティの話にも関係するのですが、「やさしい日本語」として外国人や子どもでも分かりやすい解説を一部試みるといったことも考えております。

もう1点は先ほど千葉委員から御意見いただきましたアクセシビリティ向上について、様々な来館者の方がおられますので、少しずつ情報を集め、できることからやっ払いこうと動いております。具体的には現在、市内の美術館・博物館との情報交換ですとか、NPO法人等と繋がってオンラインで情報交換をしたりしております。また実際、今年度の冬の展覧会でのギャラリートークは一部手話通訳付きで実施したいと考えております。通常よりゆっくりと話し、かつ発話したことが同時にディスプレイに表示されるツールを借りながら試行的に実施したいと考えております。

加藤会長 ありがとうございます。これで本日の会議を終了させていただきます。